優 秀 賞

私たちの水と森

茨城大学教育学部附属中学校

三年 大 越 玲 舞

水は、目には見えない場所で生命を支え、いろいろな場所を巡りながら世界を形づくっている。私は幼い頃から、その大切さを自然と学んできていた。父が林業に携わる仕事をしていることで、森は身近で特別な存在になった。父が山に植える苗木は、やがて木々へと成長し、森を造り、水を守る。その役割を理解するにつれ、私は森と水の循環に対する想いを深めていった。

森は水を育む。雨が降り注ぎ、木々の根がその水を受け止め、ゆっくりと地中へ送り込む。そして、蓄えられた水は、やがて川となり、湖となり、人々の暮らしへとつながる。父の仕事は、ただ木を育てるだけではなく、この循環を維持し、豊かな水を守る

るものだった。「間伐を行うことで森は健全な状態を保ち、過剰な水流を防ぎながら、ゆっくりと生命を育む。」私が間伐体験をした時に、父はそれを当然のことのように話し、私はその言葉を聞きながら、森の営みを身近に感じていた。

私が住んでいる水戸市もまた、水と共に歩んできた土地である。街を流れる那珂川、穏やかに広がる千波湖。特に千波湖は、私が小さな頃からずっと遊び場にしていた場所だ。

しかし、ある頃から夏になるとドブのような異臭がするようになった。なぜ、そんな風になってしまったのか、私は悲しくなり調べていくとアオコに辿り着いた。そして、アオコが発生してしまうのは、水の循環が悪化していたためだと解った。

そもそも千波湖は、徳川光圀公（水戸黄門様）の偉業の一つで、歴史書には、千波湖の整備や治水工事を行い、水戸藩の民衆の生活を守るために水利事業を推進した、と記述されている。千波湖は水戸藩の重要な水源であり、その水は農業や生活に欠かせなかった。しかし、水の循環が悪化すると水質が低

下する。この問題を防ぐため、光圀公は治水工事を
行い、水の流れを改善した。また、堤防を整備し、
洪水から民衆を守った。光圀公の施策により、千波
湖の水は長く利用され、水戸藩の発展に寄与した。
光圀公の水に対する深い理解と民を思う心は、今も
語り継がれている。

現在、茨城県と水戸市は、共同で千波湖導水事業
に取り組み、那珂川から水を桜川へ、そして桜川か
ら千波湖へ送水し、最大一秒間に三トンの水を流す
ことで、水の入替えを行い、水質の改善をしてい
る。このように、今でも市民の生活のために水の課
題に取り組んでいることが分かった。

そんな水と森のつながりを、私はある日、実際に
体験する機会を得た。水戸市森林公園で行われた植
樹祭で、父と一緒に針葉樹・広葉樹の苗木を、土を
掘り、根を広げて、植え付けを行った。思ったより
暑くて大変だったため、今でも鮮明に覚えている。
そして、「この木が大きくなれば、森がもつと豊か
になり、水と共に自分たちの生活も豊かになるよ」
と父が言った。その言葉を聞いた時、私は目の前の

小さな苗が明るい未来へと続く道を切り開くような
気がした。

森は水を守り、水は命を支える。水戸市森林公園
の植樹祭や間伐体験に参加して、ただ木を育てるだ
けではなく、その営みは、私たちの暮らし全体を支
えるものだと思った。私が小さい頃から知らず知ら
ずのうちに感じていたもの、水と森のつながりを、
この作文を通じて強く、はっきりと感じることがで
きた。